

ほっと すぺ〜す

No.153
2023・7



全国手をつなぐ事業所協議会ニュース

今号では

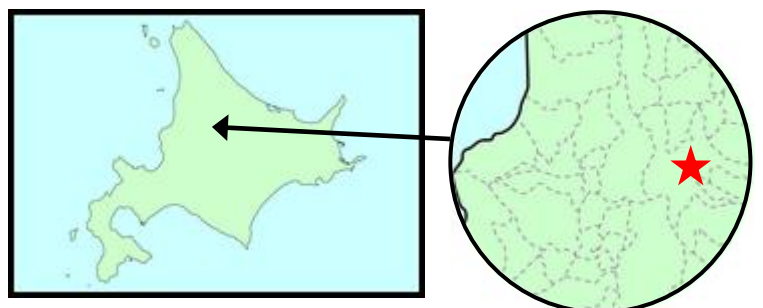
◆2022年度（令和4年度）全国手をつなぐ事業所協議会
事業報告と決算について



【ほぷら事業所の皆さん】

全国の事業所から

（一社）旭川手をつなぐ育成会
ほぷら事業所
《北海道 旭川市》



ほっとすぺ～す

No.153 2023年7月発行

今号の目次

3



2022年度（令和4年度）
全国手をつなぐ事業所協議会 事業報告と決算について

7



On The Frontline ～ 前線に立つ ～

人を大切にする、「利他の精神」を忘れずに
社会福祉法人 高知県知的障害者育成会
統括施設長 岡本 圭美 さん

16



にこっと、HOT！

グループホームの誕生日会
（特定非営利活動法人 わかばの会）

18



全国の事業所から

ぽぷら事業所（北海道 旭川市）

22



編集後記



全国事業所協議会より

2022年度（令和4年度）全国手をつなぐ事業所協議会 事業報告と決算について

2022年度（令和4年度）が終わり、総会の資料でお送りした2022年度（令和4年度）の事業報告と決算概要について掲載いたします。

2022年度（令和4年度） 全国手をつなぐ事業所協議会 事業報告

I. 令和4年度 基本方針

1. 組織の強化

2年目となる新組織を確固たるものにするため、各都道府県及び政令市の育成会と事業所協議会の関係性について現状を把握し、連携の取れる関係を作り、参加事業所の拡大を目指します。地方事業所協議会の成立に向けて支援し、既に活動している地方事業所協議会についてはその運営を支援します。

→ 2022年度（令和4年度）は2021年度（令和3年度）に引き続き都道府県・指定都市より選出された運営委員とのオンラインでの情報交換会の開催、研修委員会、政策委員会、広報委員会の活動を実施。

2. 政策提言の強化

障害者総合支援法の見直しなど、全国手をつなぐ育成会連合会と連携して制度政策に対して提言できる力を強化します。

「新しい生活様式」に合う障害福祉サービス事業の在り方を検討し、引き続き新型コロナウイルス禍における継続可能な事業運営を探ります。

→ 2022年度（令和4年度）は政策委員会が事業所アンケートを実施し、全国手をつなぐ事業所協議会の要望の取りまとめ等を行いました。また、全国手をつなぐ育成会連合会の政策委員会にも委員として参加できるよう全国手をつなぐ育成会連合会と調整を行う。

II. 重点目標

1. 組織強化と拡大

ア) 理事会を定期的開催（月1回のオンライン会議、必要に応じて参集）する。また運営委員会及びブロック運営委員会（オンライン会議）を数回開催し組織の充実を図ります。

→ 理事会開催回数12回。オンライン会議システム（ZOOM）を利用。

イ) 理事の役割分担を明確にして組織の機能の強化を図ります。

理事長（松崎 伸一）

◆総括業務

◆（一社）全国手をつなぐ育成会連合会への対応（連合会理事）

副理事長（田中 寛）

◆統括業務の補佐

研修委員会

（遠藤 洋輔〔長〕、菅 敏洋〔副〕、石川 明博、飯塚 聡、岩月 成臣）

◆全国研修大会の企画・運営 ◆ブロック研修の支援

◆研修課題の調査・研究等

広報委員会

（飯塚 聡〔長〕、門内 勇治〔副〕、石川 明博、長尾 英治）

◆協議会ニュースの企画・編集・発行 ◆育成会速報への対応等

政策委員会

（岩月 成臣〔長〕、長尾 英治〔副〕、田中 寛、門内 勇治、遠藤 洋輔、菅 敏洋）

◆会員のニーズ調査・政策・制度提言の研修、調査

◆新制度への対応策の調査、研究 ◆広報、研究等提起

◆小委員会・専門部会の運営等

事務局長（石川 明博）

◆総務、予算・決算、渉外等

ウ) 各委員会では理事以外に運営委員の参加を求め、委員会の強化を図ります。

→ 2022年度（令和4年度）は年1回の運営委員情報交換会をブロック毎にZOOMにて実施。

エ) 地方協議会の実態の把握に努め、組織の強化と拡大の取り組みを進める。

→ 各地方育成会及び運営委員と協力して各地方の組織状況について確認。

オ) 各会議等のオンライン化を推進し、多くの会員の参加を促します。

→ 2022年度（令和4年度）も2021年度（令和3年度）に引き続き理事会及び各種委員会についてZOOMにて行う。

2. 新型コロナウイルス感染拡大に対する取り組み

ア) 新型コロナウイルス感染拡大の下での障害福祉サービス事業のあり方について、調査研究を進めます。また、全国手をつなぐ育成会連合会と連携し、コロナ禍における共生社会の推進など障害者支援を行います。

イ) 新型コロナウイルス感染拡大によって事業運営が困難にならないよう、国に要望し、支援策を求めます。

→ 2022年度（令和4年度）は協議会ニュースにてコロナ対応の共有や国からの情報提供を行う。

3. 政策・制度提言等

ア) 知的障害のある人たちをはじめ、地域で生活する障害者の就労支援・地域生活支援のため、制度の在り方を追求します。

イ) 報酬改定等を含めた制度の評価・検証を行い、全国手をつなぐ育成会連合会と連携して国に要望します。

ウ) 全国の事業所の実態・課題を調査し、障害福祉サービス事業の在り方を検討します。

→ 2022年度（令和4年度）は事業所アンケートについて会員事業所を対象に実施し、集計及び報告書について協議会ニュースにて公表。2023年度（令和5年度）の（一社）全国手をつなぐ育成会連合会の要望書へ反映させる為の準備を行う。

4. 会員相互の支援・交流

ア) 事業所協議会ニュース（ほっとすぺ～す）を毎月発行し、情報提供と会員

相互の交流を推進します。

→ 事業所協議会ニュース「ほっとすぺ〜す」を138号～149号まで計12回発行。

イ) 事業所協議会全国研修大会を開催します。今年度は新潟県にて開催予定。

→ 2022年度（令和4年度）全国研修大会は新潟県の一般社団法人新潟県手をつなぐ育成会、上越地区事業所協議会が主体となり、参集にて行う。開催内容は下記の通り。

①開催日：2022年（令和4年）11月5日（参集）

②大会テーマ：総合支援法の見直しと就労支援事業の多様化～農福連携の可能性～

③開催方法：新潟県上越市 ホテルセンチュリーイカヤ 3階「飛天の間」

④参加者数：100名

ウ) 全国研修大会で捉えきれない課題をテーマにして、地域セミナーを1～2回開催します。

→ 東京ブロックにて「相談支援事業の現状と地域生活支援拠点について」をテーマにオンラインにて開催。

エ) 地方事業所協議会やブロック単位での研修会（支援力の強化やリーダー育成を目的にしたセミナー・ワークショップ等）の開催に対し支援を行います。

→ 補助を行ったブロック研修大会は下記の通り。下記以外は新型コロナウイルス感染症の影響によりブロック研修会が中止。

・北海道ブロック：「安定した事業所運営を目指して」

・東北ブロック：「インボイス制度について」※近畿ブロックと共催

・関東甲信越ブロック：「総合支援法の見直しと就労支援事業の多様化～農福連携の可能性～」※全国大会と併催

・東海北陸ブロック：「作業所の未来を地方から切り開く静岡フォーラム2023」

・近畿ブロック：研修テーマ「インボイス制度について」。

5. 共に暮らす地域づくりの推進

ア) 協議会加盟の事業所が、利用者の最も身近な地域での支援を積み上げてきた実績と、地域に根付いた事業所としての「良さ」を再確認し、地域貢献や地域づくりの視点から、活動の充実・発展させる取り組みを支援します。

イ) 地域の他の社会資源等と連携し、現在の事業に加え利用者の高齢化や重度化に対応した「住まい」の確保等、共に暮らす安心、安全な地域生活支援の役割を担う取り組みを進めます。

ウ) 地域生活支援拠点の整備に取り組む事業所を支援します。

→ 継続で「On the frontline」のコーナーを継続して掲載し、2022年度（令和4年度）は「にこっと、HOT!」を新設し会員事業所での明るい話題等の紹介を行った。運営委員との情報交換会にて各都道府県での福祉サービスの現状を共有。

6. その他

ア) 事業所協議会の組織のあり方、連合会との関係や会費等について検討を進めます。

→ 正式に（一社）全国手をつなぐ育成会連合会の正会員になる。正会員化に伴い各種委員会への委員の選出や全国大会等の参加、意見交換を実施。

（全国手をつなぐ事業所協議会事務局長 石川 明博）

2022年度（令和4年度）

全国手をつなぐ事業所協議会 決算

2022年度（令和4年度）の加入事業所は570事業所で、会費収入が285万円となりました。

支出については、2022年度（令和4年度）は全国手をつなぐ育成会連合会の正会員となったことで、「諸会費支出」が分担金として今期より発生しています。分担金の支出を想定して、2021年度（令和3年度）に積み立てた運転資金積立資産を「運転資金積立資産取崩収入」として戻し入れて収入計上をしています。

最終的に約118万円の収支差額を計上できましたので、2023年（令和5年度）に繰り越します。

（全国手をつなぐ事業所協議会事務局長 石川 明博）

令和4年度 全国手をつなぐ育成会連合会 事業所協議会 決算

（自）令和4年(2022年)4月1日 （至）令和5年(2023年)3月31日

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異(A)-(B)	備考
収入	事業収入	3,289,000	3,238,034	50,966	
	事業所協議会会費収入	2,900,000	2,850,000	50,000	
	広告費収入	288,000	288,000	0	
	全国大会開催補助金収入	100,000	100,000	0	
	受取利息収入	1,000	34	966	
	積立資産取崩収入	1,250,000	1,250,000	0	
	運転資金積立資産取崩収入	1,250,000	1,250,000	0	
収入計 (1)		4,539,000	4,488,034	50,966	
支出	事務費支出	3,839,000	3,311,331	527,669	
	旅費交通費支出	1,500,000	1,292,051	207,949	
	研修研究費支出	1,250,000	1,133,000	117,000	
	事務消耗品費支出	197,000	124,972	72,028	
	印刷製本費支出	30,000	30,000	0	
	通信運搬費支出	40,000	19,654	20,346	
	会議費支出	32,000	31,630	370	
	業務委託費支出	400,000	300,000	100,000	
	手数料支出	50,000	40,024	9,976	
	諸会費支出	340,000	340,000	0	
雑支出	0	0	0		
支出計 (2)		3,839,000	3,311,331	527,669	
収支差額 (3)=(1)-(2)		700,000	1,176,703	△ 476,703	
予備費支出 (4)		700,000	0	700,000	
当期繰越額 (5)=(3)-(4)		0	1,176,703	△ 1,176,703	

前年度繰越額 (6)	-	2,874,464	△ 2,874,464	
次年度繰越額 (7)=(5)+(6)	-	4,051,167	△ 4,051,167	

On the frontline

～前線に立つ～

このコーナーは障害福祉を前線で支える「人」にスポットライトを当てます。

今回の対談者は高知県から岡本 圭美さんです。この企画では2人目の女性です。岡本さんは高知県知的障害者育成会の統括施設長を務められ、次世代へバトンタッチをと日々奮闘されている、1959年（昭和34年）生まれ。高知県育成会の事業をけん引されてきた岡本さんですが、現在は「地域活動支援センター香美」管理者、就労継続支援B型事業所「第2香南くろしお園」管理者を兼務されています。

香美（かみ）市は高知市の東10kmほど、JR土讃（どさん）線では高知駅より15分ほどで土佐山田駅となります。土讃線は四国山地を超えて香川県に続いています。香美市は平成の大合併で、香北町（かほくちょう）・土佐山田町・物部村（ものべそん）の3町村が合併してできたとのこと。南国土佐よりお話を聞きました。

第16回

人を大切にする、「利他の精神」を忘れずに



社会福祉法人高知県知的障害者育成会
統括施設長 岡本 圭美 さん

【松崎】 それでは、早速お話を伺いたと思います。

岡本さんは高知県のどの辺りで生まれ育ったのでしょうか。まずはその場所から伺えればと思います。

【岡本】 はい。私は、昭和34年（1959年）に両親の仕事の関係で、高知県と徳島県の県境付近の山村で生まれました。高校と短大は、片道2時間半かけて高知市内に通学していました。南国市の北の方、高知県長岡郡大豊町という、人口は3000人位の小さな村で、通学の際には朝5時半頃の電車に乗って通っていました。

【松崎】 そうですか。以前、土讃線に乗ったことがあります。香川県に行く山の中を走っていく列車ですね。ジェットコースターのように走る列車で、こんなに飛ばして大丈夫かと思った覚えがあります。長閑なとても良い環境で生まれ育ったということですね。しかし、2時間半かけて高知市に通うというのはすごい。

【岡本】 いえ、学生の時でしたので、それほど苦ではなかったです。短大卒業後に
全国手をつなぐ事業所協議会ニュース「ほっとすぺ〜す」●No.153（2023年7月）

今勤めている高知県知的障害者育成会に就職し、結婚後は、何かあってもすぐに対応できるように職場の近くに住居を構えました。平野に憧れがあったということもありますね。家族は、主人と娘2人（うち1人は結婚して県外在住。孫が1人います）。独身時代は、バイクでツーリングが趣味だったんですが、結婚と同時に皆に反対され止められてしまいました。

【松崎】 そうですか。バイクに乗ったアクティブな青春だったんですね。そんなライダーが高知県育成会に就職するきっかけ何だったんでしょうか。

【岡本】 短大での実習先が今の法人でして、実習へ行ったところは入所施設でした。ただ、いい意味でも悪い意味でも自分が育ってきた世界との違いにカルチャーショックを受けて。そして、利用者の方たちの人懐こさやピュアな部分に惹かれました。

帰り際に「また会いに来てね」と言われて、「また会いに来るからね」と言ったんです。それで、週末には施設に何となく行っていました。そして、その言葉に誘われ、卒業後そのまま就職しました。私自身は、天職だと思っています。と面接時に言った覚えがあります。ただ、両親は大反対だったようで、あとから当時の園長に、「ここに就職させるために育てて来たのではないので辞めさせて欲しい。」と直談判に両親が来たというエピソードを聞かされました。

【松崎】 岡本さんのハートを掴むような利用者の方がいらっしやっただけ、しかしご両親は大反対。当時はありそうな話です。それを振り切ってこの世界を選んだのだから、素晴らしい選択です。私も35歳の時に公務員を辞めて作業所を始めたんですが、父親からは大反対、妻の父からは離婚だと言われたものです。そんなに古い時代ではなかったと思いますが、障害者に関わる仕事は理解されていなかったですね。でも岡本さんは障害がある彼らに惹かれた？

【岡本】 自分にとっても、大学受験で失敗して、将来なりたいこと（航空会社での勤務を夢見ていたんですが）とは全く違う方向で、すごく迷った部分もあったんです。短大を卒業した後は幼稚園の就職するのか？どうする？という迷いもあったんですが、自分はこの世界でやっていきたい、あの「ありがとう」の言葉に出会って、彼らと出会ってそう感じました。

【松崎】 将来思い描いていた方向とはずいぶん違う方向を選択されましたが、その選択は間違っていなかったと思いますよ。いいお話ですね。育成会で最初に配属された先は、そしてどんな仕事でしたか。

【岡本】 知的障害者入所施設かがみの育成園というところで、入所施設の支援員をしていました。夜勤もありました。男女混合棟で、障害程度は中軽程度くらいの方が多かったです。

作業は私が入職した時は木工の加工作業を主に行っていました。その関係で製材会社にお仕事に行かれる方も居ました。今であれば、就労B型もしくは企業に行けるような方たちだったように思われます。年代で

でいうと、昭和56年、1981年頃。

その後、私自身勉強しなければと思って、京都の佛教大学で養護学校教員免許の通信教育を受講し、職場に実習申し込みをしたことがあったんです。それは現場から1か月離れる必要があり、上司からはその資格を取ったら、貴女は辞めるんでしょと言われてしまい、現場を離れることができなくなりました。でもあの勉強をしたことも凄く良かったという風に思っています。



【第2 香南くろしお園の外出行事にて】

【松崎】 40年前ですから、将来有望な職員が京都に行ってしまうのでは、と上司の方も心配されたんでしょうね。同時期に私も重度の障害のある弟が入所施設にいました。長野県の田舎なんですが、その当時の入所施設は同じような状況でしょうか。

【岡本】 当時は、利用者約100名が入所しており、10畳に2段ベットで8人部屋でした。生活環境は良いとは言えませんが、本当に家族みたいな感じでした。みんなで協力し合って、仲良く、温かかったです。仲間でした。それこそ措置の時代は、ゆっくり時間が流れ、利用者と共に生活をしているという充実感がありました。施設パラダイス論を信じ、何も疑問にも思わず、利用者と共に「幸せ」を感じていました。生活は質素でしたが、心は豊かだったように思います。昭和58年（1983年）の2回目の施設建て替え後、「建物はきれいになったけど、昔が良かった。皆が仲良くて楽しかった。」と利用者の方に言われたことがありました。8人部屋の時代はアットホームで、家族のような存在とご本人たちも感じているなど。

今は時代に流されている自分が嫌になることもあります。原点回帰、もっともっと利用者一人ひとりと向き合う時間を作らなければと感じています。

【松崎】 岡本さんは良い措置時代を過ごしたようですね。当時、仲間として、みんなで楽しいと思える環境があったということでしょうか。そうは言っても、ご苦労はしたと思います。この仕事を辞めたいと思ったことはありませんでしたか。

【岡本】 はい。私が入職2年目の時ですね、大事件が起きたんです。重度棟の勤務に変わった直後のことです。夜勤時に利用者さんが、無断外出して大事故に遭い大怪我をしました。6月に行う毎年の行事で、ご父兄がお泊りになる日。利用者16人を夜勤一人で支援するような状況でした。

夕食後にお風呂掃除をしていると、近くを走っている線路で汽笛が鳴りました。利用者の1人の姿が見えないと思っていた時です。事故が起きました。列車の風圧でその利用者の方が吹き飛ばされて、脾臓破裂という大怪我をされました。幸い一命は取り留めてくれました。

責任をとって退職願いを提出しましたが、当時の園長が、責任を取るといことは、辞める事だけではない。この仕事を全うして利用者の為に働き続ける事も責任を取る方法だと諭してくれました。私が自分から仕事を辞めたいと思ったことは一度もありませんが、辞めなければならないと思ったのは、この1回だけです。利用者の方を看ていなかったというのは事実で、自分はこの仕事はしちやいけないと本当にそう思いました。そして病院での付き添いをさせて欲しいと頼みました。

【松崎】 そういう失敗もあって、この仕事为天職になっていったということですね。

【岡本】 あの当時、この仕事をよくは知らなかったですし、面接時には、ただこの仕事が素敵と感じて、ずっと続けたいと思ったのは確かです。面接時に天職なんてなかなか言わないと思うのですが、その時はそういう風に言葉が出てきて。親にも反対されましたが、自分は確信して譲れなかった。2年目にしてこの事故を起こしてしまったという事が、むしろ続けるきっかけにもなったのではと思っています。

【松崎】 そうですか。人生のドラマがあった。しかしその若き乙女時代から現在まで仕事をやりぬいた訳です。それだけで素晴らしいことだと思いますよ。実は私の弟も2度3度施設から脱走して、車にはねられ入院もしました。その時の担当職員的心情、家族の思い、すべて一括りにしてせつない記憶ですが、皆さん学んで乗り越えていると思います。

さて、そんな頑張り屋の岡本さん、その当時、お子さん2人を育てながら仕事をするということは本当に大変だったのではないですか。

【岡本】 休日勤務で、子どもの預け先がない時は、園で遊ばせていました。すると、利用者さんが一緒に遊んでくれたり、休日の職員が見てくれたりしました。今は、そんなことできないですが・・・

仕事は変則ローテーションで夜勤もあったので、主人の理解と協力がなかったら、それこそ仕事は続けられなかったと思っています。家族の協力なしには、今はないと感じています。次女が県外への大学進学の際、「お母さんは、私達より仕事が好きなんやね。保育所の時、いつも迎えが最後で淋しかった。」と言われたことが今でも心に残っています。ただ、彼女自身が仕事に就いた時、私も母と同じだと理解をしてくれました。とても嬉しかったです。

【松崎】 ご主人の理解と協力があつたんですね。私も事あるごとに作業所に子どもを連れて行きましたね。頭の中は作業所のことでいっぱいでしたが、子育て

も協力してるつもりで。しかし公務員として働いていた妻には、その協力程度では評価してもらえなかったですよ。今でも。

【岡本】 46歳の時には交通事故に遭い、その1か月後にメニエール病を発症し、なかなか回復できず、もう仕事に復帰はできないと落ち込んだこともありましたが、その時も家族や色々な方に助けていただき、約15年程かかりましたが、少し症状が落ち着いてきました。最近、自分の為に時間を作ることにし、月3回は、身体のメンテナンスをしています。至福の時間です。

【松崎】 それは大変でしたね。事故、病気を乗り越えて仕事を続けている、ご苦労があったと思います。

さて少し事業のお話を聞こうと思います。高知県育成会の事業は今どんな状況ですか。

【岡本】 当法人では、現在、17事業所36事業を展開しています。

入所施設（80名）を中心に事業を展開していますが、就労系（A型、B型含む）やグループホーム（150名）、また日中活動支援事業、相談事業、放課後等デイサービス事業を運営しています。

措置時代の昭和56年（1981年）頃、入所施設の中では重度高齢化がクローズアップされてきて、今後の運営をどうしていくかという協議になりました。グループホームというか、普通の生活って何だろうと時間をかけて検討し、平成2年（1990年）にグループホームを開設しました。そのバックアップ施設として私自身も担当職員となりました。

バックアップ支援と入所支援を兼務することをきっかけに、平成8年（1996年）には地域療育等支援事業（現在の相談支援事業）担当。平成18年（2006年）には相談支援事業所の開設。平成24年（2012年）にはかがみの育成園副園長、生活介護事業所管理者兼務。平成27年（2015年）には福祉工場と就労事業所の管理者。法人の支援部長に就任。

令和4年（2022年）から、地域活動支援センターと新たに就労継続支援事業所管理者として事業立て直しに取り組みました。平成27年（2015年）からは福祉工場の立て直し、平成29年度（2017年度）からの就労継続支援A型事業の改革に向けて、事業アセスメントを実施し、食品加工の委託事業から新たに配食事業に挑戦することにしました。グループホーム150名の利用者への朝夕の配食と3カ所の通所事業所への昼食の提供、食材キットの外部販売を開始。内部循環で、確実に収入を得る仕事を確保しました。

職員曰く、「やらされる仕事から、やりたい仕事への転換で毎日が楽しい」と。利用者も自分たちが食べるものを自分たちで作る喜びを感じているようです。「食」は、皆を笑顔にする。幸せにする力を持っていると確信しました。社名もSORAに変更しました。広い空は、皆の頭上に平等に大きく広がっている。「SORA」はその下でおもいきり働く様子です。皆様のご協力のおかげで、順調に業績を伸ばしています。

厳しい時期ではありますが、全職員（328名）で経営運営を考えていくように、若手の幹部職員で「みらい推進会議」も立ち上げました。



【支援センター香美の支援スタッフと】

【松崎】 時代に合わせて事業の転換を図っているようですね。150名規模のグループホームというのは相当大変ではないかと思えます。職員が確保できるのはうらやましい。

【岡本】 こちらでも職員確保は本当に大変です。職員の家族にもお願いすることもあります。今はいろいろな広報誌を通じて募集をかけています。

現状、グループホームはNPOや株式会社の参入がすごく多いです。そういったところはやはり、障害の中軽度の方が中心です。障害の重い人はグループホームで暮らせないのか、程度にかかわらず地域で暮らしたい思いをかなえる必要があるのではと。

相談支援事業では困っている人たち、支援の必要な人たちのアプローチとして、相談事業と一緒にサービスにつながらない人への支援もしていて、B型とか生活介護とかになかなか繋がらない場合に、地域活動センターに一時的に在籍してもらって、計画相談などに入ってもらって、コーディネートして実習先を調整していただいたりしながら繋いでいってもらっています。

もう一つは、地元の地域活性化。子どもから高齢者まで、縦割りでなく、皆が共に支え合う地域づくりを昨年から提案しています。不登校の学生、ひきこもりの在宅者、独居老人、子育てに不安を抱いている若い母親等々、色々な相談が毎日舞い込んでくるので。そんな方々が気軽に集える場、居場所作りができないか考えています。まだ、その検討が始まったばかり。地域の皆さんの為に出来る事は何か？です。

実際引きこもりの方や学生さんなど、地域の中で増えてきています。少し場所を変えながら、子どもから高齢者まで立ち寄れるような居場所にしたいなと市のほうに投げかけなども行っています。

【松崎】 東京では特別支援学校の卒業生の50%近くが企業就職するようになり、就労Bへ働き手は行かなくなっています。高知県ではいかがですか。

【岡本】 こちらも同じ状況といえます。高知県の就職率は全国的には高い状況で、1位2位を争っています。

そのようなこともありB型事業所に働き手が来ず、重度の方のB型利用が多くなっています。重度であっても働きたい思いがあればそれを進めていきたいと思っています。

同時に、B型事業所の立て直しも行いました。喫茶店営業を行っていますが就労事業収入は毎年赤字。ホールでは、お客様より利用者が多い状況で。紆余曲折はありましたが、現在2店舗の喫茶運営と弁当店運営で、黒字に転換しています。

喫茶で最初に行ったのは制服づくり。利用者のモチベーションが上がり、接客にも効果がありました。そして事業所の一泊旅行を実施しました。利用者と職員の仕事を離れての交流の場はとても大事な時間でした。楽しみがあることは、次の意欲にも繋がります。



【カフェゾネのスタッフと】

【松崎】 そうですか。お話を聞いているとすごく皆さん意欲的にやっけていらっやって、本当にチームワークいいんだろうなと感じます。ではこれからの課題はどんなところですか。

【岡本】 課題はやはり事業再編でしょうか。利用者・職員が目標を持って仕事が続けられるように、これだけはきちんとしておきたいという思いは強いですね。次の世代にバトンタッチしていかなければいけないと思っている自分と、組織がまだ成熟していない中で、辞めてもよいだろうか？という葛藤で、結論が出ないままずっと悩み続けています。でも「終わり良ければ総て良し」で潔く辞めたいと思っています。

令和4年度（2022年度）から、花卉園芸を中心とする事業所の再編に取り組んでいます。利用者確保と作業内容の見直し、そして新たな事業

展開も行いたいところですが、資金がなく投資が出来ない。事業アセスメントを1年かけて行い、作業の整理を実施しました。閉所することは簡単ですが、目の前に利用者があるので、簡単に止められない。今まで育ててきた仲間との絆を大事にして、「職員と利用者」この人材を生かした事業展開をもう一度模索してみようと考えています。我々が、この地域で必要とされることは一体何か？役立つことは何か？考えていきたいですね。

事業はなんでもそうですが、赤字というのはだめですよ。各事業所、自立をした運営をしていく必要があります。

A型事業所も今まで委託作業を行っていましたが、社員さんのお給料が上がっていない。これはおかしいと、儲けているはずなのに儲けていないということで、委託作業を止めて新たに配食の仕事始めた経緯があります。

体力的なこともあるんですが、楽しくてしょうがないですね。一番は職員が笑顔じゃないと。先ほども言いましたが、新たな事業所を始めたときに、今まではやらされてきたが、今は自分たちで考えられると皆、楽しそうに話していますから。毎日楽しいと言っています。

【松崎】 ありがとうございます。本当に多くのことを手掛けていらっしゃるんですね。意欲がよく伝わってきます。それでは最後にこれだけは伝えたいことを伺いたいと思います。

【岡本】 そうですね、利用者のため、保護者のため、職員のため、そして最終的には自分のためと、一度きりの人生を楽しく仲間たちと過ごせることに喜びを感じています。戦争もある社会、生きづらい世の中ではありますが、人を大切にする、「利他の精神」を大切に、この仕事を続けていくことが何よりの願いです。

毎年新人研修の1コマを頂いて、「良き支援員を目指して」と題して話をさせて頂いていますが、これからの人たちに、創立60年を過ぎ、歴史ある法人の歩みをしっかり学び、法人のポリシーを受け継いでいていただきたいと強く思います。

これからの時代は、経営的にも厳しくなっていますが、法人理念を大切にして、何があってもぶれることなく、利用者に寄り添っていただきたいと思います。

【松崎】 岡本さん、ありがとうございました。お話を聞いていて、本当に嬉しそう、楽しそう、幸せそうに見えました。いい仲間恵まれて、お仕事をされている様子がよくわかりました。バトンタッチ、うまく繋がってくださると確信しています。

そしてその笑顔から、高知県がより素敵な場所に感じました。すぐにも羽田から飛行機に乗りたくなった今日の対談です。近いうちにお邪魔させていただきます。

本日は本当にありがとうございました。

(ここに載せた以上にたくさんのお話を聞きましたが、紙面の制約上割愛しています。ちょうど、ほっとすぺ〜す5月号の「全国の事業所から」コーナーに生活介護「パワーズ山田」が載っています。合わせてお読みください。)

(全国手をつなぐ事業所協議会 理事長 松崎 伸一)

【全国手をつなぐ事業所協議会ニュース「ほっとすぺ〜す」 No.151（毎月発行）

全国の事業所から

パワーズ山田
(社会福祉法人 高知県知的障害者育成会)
(高知県 香美市)



【事業所の外観】

当法人は、高知県の東部エリアに位置する香美市（かみし）にあります。香美市（かみし）と言っても馴染みが薄いかもしれませんが、平成の大合併が行われた2006年（平成18年）に、香北町（かほくちよう）・土佐山田町・物部村（ものべもん）の3町村が合併してできた市です。

法人の成り立ちは約60年前にさかのぼり、1962年（昭和37年）に当時の土佐山田町に入所施設「かがみの育成園」（香美郡の周辺地域は、かつて「かがみのごおり」と呼ばれたことから名付けられました）を設立したことに始まります。

今では利用者ご家族のニーズにより全県域で障害者福祉事業を展開しています。居住支援では、障害者支援施設1か所、グループホーム4か所（住居数36力所）+サテライトホーム。生活介護事業所1か所、多機能事業所3か所、就労支援事業所4か所、相談事業所2か所、就業・生活支援事業所2か所の計17事業所36事業を行っています。

今回は、生活介護事業所「パワーズ山田」をご紹介します。

1993年（平成5年）、県のモデル事業で支援度の高い方のグループホームが開所し、それに伴い日中活動先としてパワーズ山田の前身である山田共同作業所を開所しました。2001年（平成13年）に通所授産施設となり、2012年（平成24年）には、生活介護事業所として新たな出発をしました。利用者は41名で平均年齢61.9歳になります。そのうち60歳以上の方が31名在籍しています。利用者の大半は、入所施設から地域生活に移行

16 全国手をつなぐ事業所協議会ニュース「ほっとすぺ〜す」●No.151（2023年5月）

【全国手をつなぐ事業所協議会ニュース「ほっとすぺ〜す」 No.151（毎月発行）

された方で、現在30名の方が、グループホームから通われています。

パワーズ山田のコンセプトは、「いくつになっても輝きたい！」一人ひとりの生きる力を明日につなげよう！と一日一日を大切に活動しています。園芸作業・リサイクル活動・衛生用品箱詰め作業・創作活動・理学療法士によるリハビリ訓練・レクリエーション・地域交流を行っています。生活介護事業所ですが、作業活動収入は、工賃として支払われますので、皆さんの働くモチベーションに繋がっています。自分に役割があり、頼られていることが、それぞれの方の生きがいになっているようです。また、入所施設から一緒に過ごしてきた仲間同士の連帯感が年齢を重ねるごとに強くなっています。



【創作活動の様子】



【芸術発表会をしました】



【農作業の様子】



【ハロウィンでは仮装をしました】

最近では、介護施設へ移行される方や、併用して利用される方が増えてきました。介護保険優先のため65歳でサービスが利用できないと言われるケースも増えています。市町村に対して、「本人の意向を大事にして欲しい」と訴え続けていかなければならないと考えています。もちろん、現在の環境で対応できなくなる場合は、次の活動先をコーディネートしていかなければなりません。

我々の使命は、ご本人が、その人らしく活躍できるように健康維持も含めて、生きがいを持って活躍できるようにサポートし続ける事ではないでしょうか？それが支援者のやりがいでもあります。

当法人は、これら子どもから高齢者の方まで、当たり前人生を楽しみながら生きられるよう更なる事業展開を目指していきます。

(社会福祉法人 高知県手をつなぐ育成会
統括施設長 岡本 圭美、パワーズ山田 管理者 笹 邦広)

17 全国手をつなぐ事業所協議会ニュース「ほっとすぺ〜す」●No.151（2023年5月）

【ほっとすぺ〜す 151号】

にこっと、HOT!

～ちょっと、イイ話～

「にこっと、HOT!」障害福祉の現場ではつつい厳しい話も多くなってしまいがちです。しかしよくよく見ると毎日の現場では笑い声が絶えません。ついニヤニヤしてしまったり、ほろっとすることが日常の中に隠れています。

第7回目は東京都調布市からです。

グループホームの 誕生日会

特定非営利活動法人 わかばの会
(東京都 調布市)

東京都調布市にある「特定非営利活動法人わかばの会」が運営するグループホームふたばの誕生日会の様子をお伝えします。

ふたばは男性寮で2016年（平成28年）5月に開所し、6名の入居者が生活しております。年に6回、みんなが楽しみにしている行事、誕生日会があり、コロナ前は誕生日を迎えられる方が、食べたい夕食を一品依頼して職員が作ったり、ケーキもみんなで作り、ご家族を招待してみんなでお祝いをしました。

コロナ禍になり、ふたばの誕生日会も大きく変わりました。



【誕生日ケーキでお祝い】



【今月の主役】

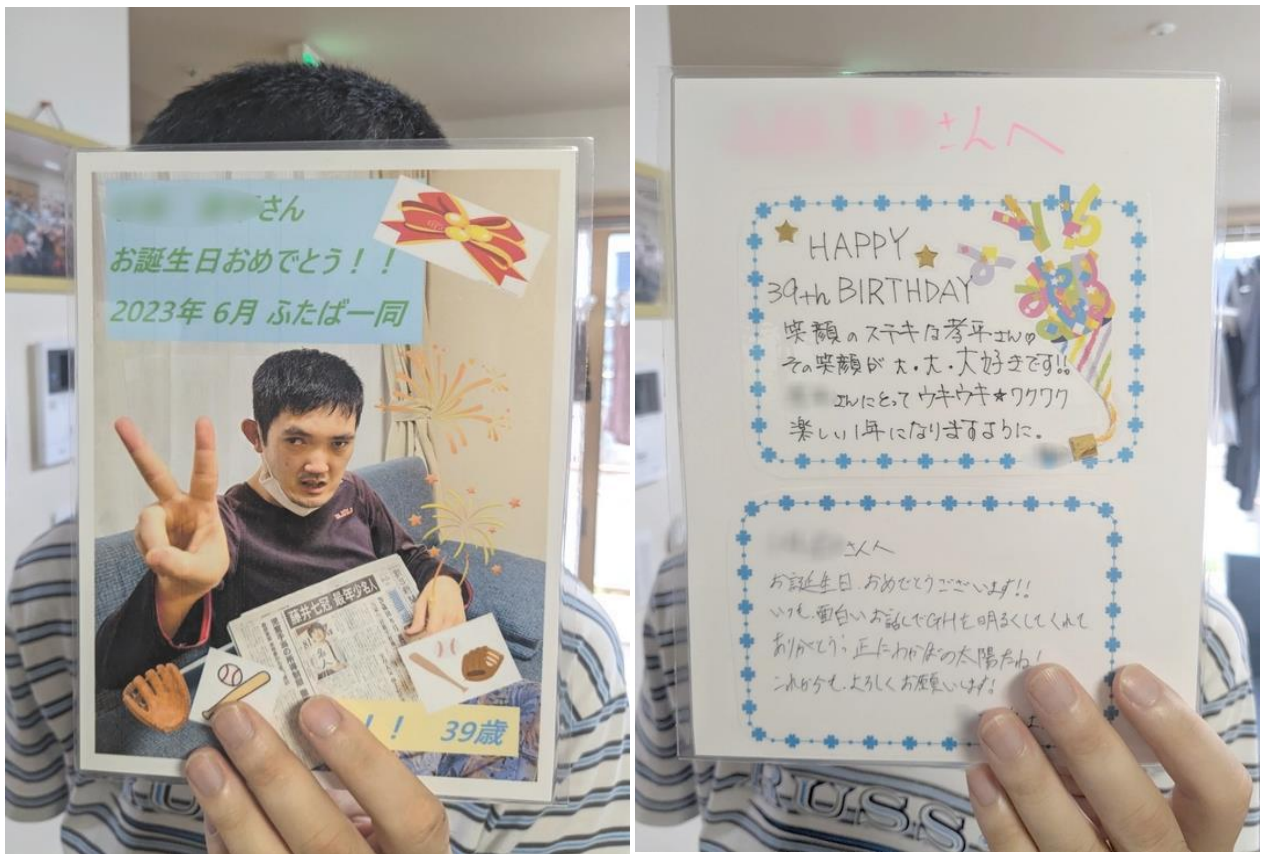
夕食は弁当業者のメニューから入居者一人一人が自分の好きなお弁当を選び、誕生日ケーキは、誕生日を迎えられた方に代表してカットケーキを選んで頂く形へと変わりました。一番、感染が増えた時は、弁当も2班に分けて食べ、ケーキのみ黙食でお祝いしました。コロナも5類になり、少しずつみんなでお祝いする時間を増やしました。

今回の主役は、39才の誕生日を迎えられた男性の入居者です。お弁当は、ご本人の希望により、大好きなハヤシライス、ケーキはイチゴのショートケーキを選ばれました。

夕食時には個々に選んだお弁当がテーブルにセットされ、6名全員で食べる食事は最高！みんなきれいに食べきりました。そしてメインのケーキが登場！ローソクに火がつくとリビングの灯が消され、誕生日の歌をみんなで合唱し、歌が終わると思いっきり吹き消され、ご本人からは、「30代最後の年、がんばります！！」との力強いコメントを頂きました。プレゼントは他の入居者・職員、お一人お一人からの「おめでとう！！」のお祝いの言葉と、メッセージが添えられたご本人の写真付きカードを受け取り、とてもうれしそうな様子でした。いつも一緒に過ごしているグループホームの仲間にお祝いされて、とても幸せな日になりました！

改めまして、お誕生日、おめでとうございます！！

（特定非営利活動法人わかばの会 グループホームふたば 主任世話人 小林 茂信）



【スタッフからの手作りカード】

全国の事業所から

ぽぷら事業所

〔一般社団法人 旭川手をつなぐ育成会〕
（北海道 旭川市）

北海道旭川市に「ぽぷら事業所（就労継続支援B型・生活介護）」があります。ぽぷら事業所の前進は、1985年（昭和60年）に発足した「花咲ポプラ共同作業所」です。1989年（平成元年）には2つ目の作業所となる「豊岡共同作業所」を発足しましたが、2007年（平成19年）に花咲ポプラ共同作業所に合併されました。その後、2010年（平成22年）10月に旭川駅にほど近い所へ移転し、多機能型障害福祉サービス事業所「ぽぷら事業所」となりました。



【事業所の外観】

現在、32名の利用者が登録しています。1日の平均利用者は28名ほどで、1階を生活介護が使用、1階の一部と2階を就労継続支援B型が使用して毎日作業を行っています。

就労継続支援B型では、資源回収（登録先の企業や個人宅へ訪問し、新聞・雑誌・缶・びん・段ボールを回収する）や地域の企業からの受注作業（個別包装やラベル貼り・シール貼り、そば粉袋詰め、お菓子の箱折り、海産物用の紙袋製作、市の指定ごみ袋の袋詰め）、除雪作業、施設外就労（市からの委託事業のリサイクルプラザでの紙選別作業）を行っています。



【資源回収に回っています】



【市の指定ごみ袋の袋詰めの作業】

資源回収は、作業車に乗って市内全域を回ります。道順や訪問先の名前を覚えるのが得意な方、訪問先の新聞等の保管場所を覚えることが得意な方もいて、とても頼もしく感じます。冬の作業では、20センチぐらいの降雪があるときに、高齢者の玄関や家のまわりの除雪作業を行っています。作業の終了後には依頼者や請負元から感謝されるため、それぞれにいつもやりがいを

感じながら作業を行うことができます。

生活介護ではこころとからだの健康を第一に、それぞれのスタイルで好きな活動をして過ごしています。作業は自主製品づくり（牛乳パックを活用し製作した椅子、さしこ、ミサンガ）を行って販売しています。フリーペーパーで「牛乳パックの椅子」を期間限定で紹介をして頂いたときは1ヶ月で70個の注文が入ったこともありました。その後の製作は大変でしたが、利用者と職員が一体となって、お客様対応を行えたことが良かったと思っています。健康を維持する活動として、体育館でポッチャ、バドミントン、球技などを行って汗を流しています。コロナ前には、毎月調理実習（昼食づくり）を行っていただけましたので、今後また出来ればと思います。



【自主製品づくり（さしこ）】



【体力づくり（ポッチャ）】

年末の恒例として、しめかざり販売を共同作業所のころから行っています。現在の事業所の地域に移ってからも、販売を続けています。一時売上げが下がった頃もありましたが、しめかざりのチラシを抱えて歩いてポスティングをしているうちに少しずつ地域からの受注が増えてきているのを感じます。地道な活動の一つですが、今後もさまざまな活動やPRを通じて、地域の人に支持される事業所でありたいと思います。年末には「今年もお互い頑張ったね！」と気持ちよく言いあえるように利用者みなさんと協力していきたいと思っています。



【事業所のみんなで初詣】

（一般社団法人旭川手をつなぐ育成会 ぽぷら事業所 所長 菊地 英文）

知的障がい児者・自閉症児者の 生サポは 家族の安心を支えます

- 日常生活に関する相談支援
- 就労に関する相談支援
- 権利擁護に関する相談支援

の3事業を実施しています。

当会にご入会いただくと、知的障がい児者、自閉症児者のための病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

主な補償内容

病気やケガで入院したとき
入院給付金

賠償責任を負ったとき
個人賠償責任保険金

ケガをしたとき
死亡・後遺障害・入院・通院・手術／各保険金
(地震・噴火・津波によるケガも対象)

虐待・逮捕・勾留に対応するとき
弁護士費用等補償
※プランによって補償します

病気で死亡したとき
疾病葬祭費用保険金
※プランによって補償します

就労中に他人にケガをさせたり
物を壊してしまったとき
職業従事中事故対応費用補償
※プランによって補償します

※上記は概要ですので詳細は下記までお問い合わせください。

●生活サポート総合補償制度の主な特長●

- ▶入院給付金は既往症の病気、てんかんも補償。
- ▶全国の団体を通じてのご加入のため、多数割引が適用され、個人加入の場合に比べて保険料が割安です。
- ▶取扱代理店は、知的障がい児者や自閉症児者への保険の販売において、30年以上の実績があります。

生活サポート総合補償制度は…

全国で約149,000人のみなさまにご利用いただいている補償制度です。



AIG損保の普通傷害保険

生活サポート総合補償制度

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、
職業従事中事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者
株式会社 ジェイアイシー
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビル2号館2F
TEL: 03-5321-3373 FAX: 03-5321-4774
受付時間: 午前9時～午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社
AIG損害保険株式会社
<https://www.aig.co.jp/sonpo>
東京第二プロチャネル営業部
〒163-0814 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル14階
TEL: 03-6894-9110
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ご入会のお問合せはこちら

一般社団法人 全国知的障害児者生活サポート協会
連絡先はTEL又はホームページにてご確認ください。
TEL: 03-5577-6351 <http://www.zensapo.jp>
加入窓口は全国の全国知的障害児者生活サポート協会傘下の
各都道府県団体の事務局となります。

2021年12月現在の内容です。(D-005640 2023-03)

病気やケガが絶えない…
成人病や生活習慣病に備えたい…



他人の物を壊してしまった…



このようなお困り事に
心当たりがある方に…



虐待・雇用現場での差別など
人に相談しにくい悩みがある…

障がいのある方とご家族へ



ぜんちの

あんしん保険

少額短期健康総合保険(無条件型)2019年創設

- ・最高日額1万円
- ・個人賠償責任補償
- ・弁護士費用補償
- ・安心サポート

知的障がい・
発達障がい、ダウン症、
てんかんの有る方、
ご家族に

弁護士が
全面的に
サポート

特別支援教育を必要とされている方へ



ぜんちの

こども傷害保険

権利保護賠償付傷害保険 2019年創設

- ・入院・通院を日額保障
- ・個人賠償責任補償
- ・トラブルに巻き込まれた際、
弁護士がサポート

※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。
ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。



詳しい資料のご請求・お問合せはこちら

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5 九段北325ビル4階

0120-322-150

平日9時～17時/土日・祝日・年末年始を除く

URL: <http://www.z-kyosai.com/>



ぜんち共済株式会社

関東財務局長(少額短期保険)第14号

【2020年1月作成 19-TC06633】

編集後記

記事にもありましたとおり令和5年度の総会では、令和4年度の事業報告と決算、令和5年度の事業計画と予算ならびに役員改選をご提案しました。

役員改選の議案でもご覧になって頂いたと思いますが、近畿ブロック担当理事をさせて頂いておりました私は任期満了で退くことになりました。



2018年（平成30年）から前任の白杉委員（現：滋賀県手をつなぐ育成会副理事長）から引き継ぎ、主に広報担当として広報紙やホームページ等の立ち上げに携わりました。その間に事業所協議会も全国連合会の一部門から正会員の位置づけと変わりました。今後は会員事業所の拡大も図るためにも広報の充実を図っていく必要性がありますが、その辺りは門内理事（北海道ブロック）にバトンを引き継がせていただきます。

最後になりましたが、今後も障害福祉サービス事業所は大きな役割を担っていくことと思いますので、皆さま方の益々のご活躍をご祈念いたしまして退任のご挨拶に代えさせていただきます。これまでありがとうございました。

（近畿ブロック 飯塚 聡）

<p>全国手をつなぐ事業所協議会ニュース 『ほっとすぺ～す』2023年7月号 (通巻153号) 2023年7月15日発行</p>	<p>【編集・発行】 全国手をつなぐ事業所協議会 岩手県盛岡市下飯岡15地割77-3 TEL 019(613)7200 定価100円</p>
--	--

コピー用紙 定期配送サービス

**ウチダシステムズの通販をご利用頂ければ、
事務用品・衛生用品などが
全国手をつなぐ育成会連合会
事業所協議会様向けの特別価格で
お安くご提供できます！**

ポイント①


760万以上の商品を
「事業所協議会の皆様だけの特別価格」
でご提供します！

ポイント②

最短翌日配送のスピードで欲しいものが
直ぐに届く！
※一部、対象外の地域有

ポイント③

請求書を科目や事業毎に分けることが出来るので経理業務が楽に！



ご相談は下記までお問合せ下さい。
株式会社ウチダシステムズ 福祉施設営業部
TEL : 03-3537-0888